

<対象外農地の耕作者や近隣集落との連携に取り組む事例>

○非農家と連携して豊かなふるさとづくりを目指す

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県中能登町春木協定			
協定面積 7.8ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稻			
交付金額 83.6万円	個人配分			49%
	共同取組活動 (51%)	農道補修積立金		7%
		農用地の維持管理費		18%
		農道の維持管理・補修等		24%
	役員報酬		2%	
協定参加者	農業者6名 農事組合法人やまびこ			開始:平成12年度

2. 制度取組の経緯

当集落は、中能登町の北西部に位置する丘陵地帯に囲まれた中山間地域で、耕地面積46haのうち水田が93%を占める水稻単作地帯である。近年、水田転作園芸作物が積極的に振興され、白ねぎ、かぶ、かぼちゃなどが作付けられている。

しかし、当集落でも、農業従事者の高齢化や後継者不足が進行し、農地の荒廃が懸念されたことから、平成12年度より本制度に取り組み、耕作放棄地の解消や景観維持を図るとともに、住民が一体となって、豊かな「ふるさと」づくりに努めている。

3. 取組の内容

定期的な農道や水路管理、周辺林地の草刈り等による農業生産活動や担い手を中心とした高付加価値型農業の取り組みを行っており、第3期対策からは維持困難な農用地が発生した場合には、農事組合法人が引き受ける体制としている。

また、農地・水保全管理支払に取り組む農家や非農業者と連携して法面崩壊防止のための「カバープランツ」を植栽したり、自然生態系の保全に関する取り組みとして地区内のため池や水路などで「生き物調査」を実施するなど、次世代に農業や自然の大切さを伝える活動も行っている。



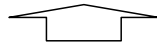
【カバープランツ】



【生き物調査】

【集落の将来像】

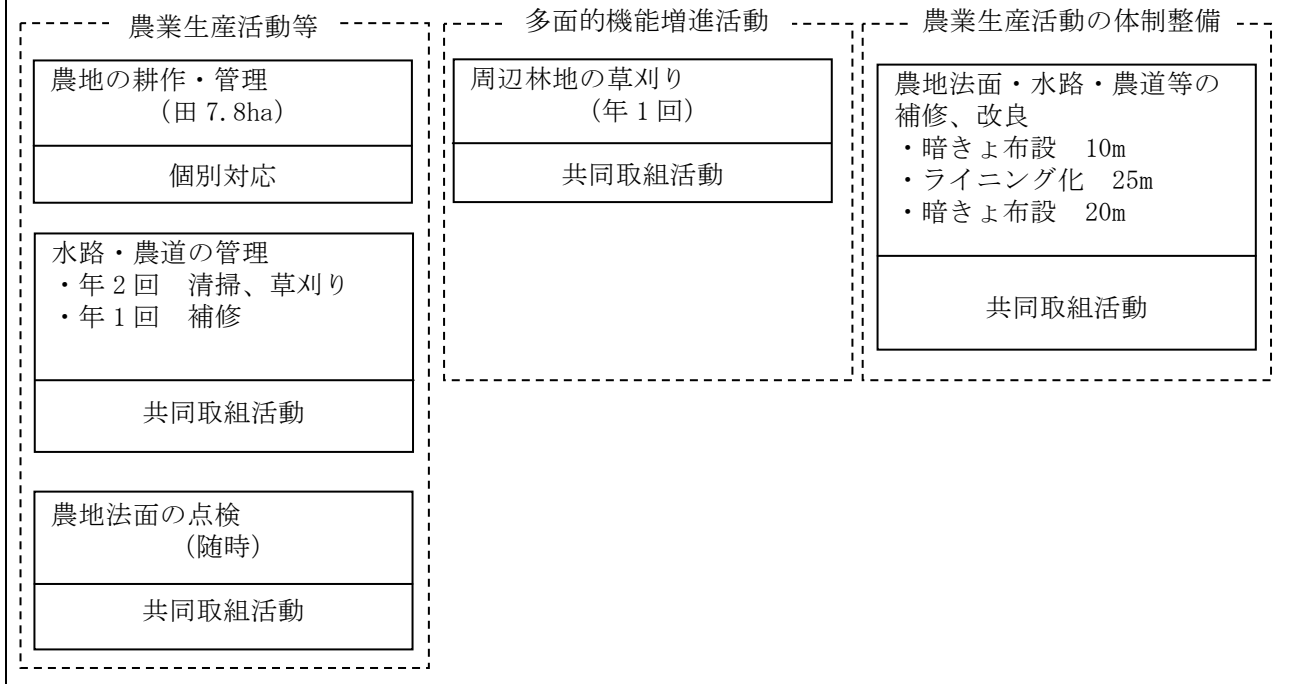
集落ぐるみの農業生産活動等の体制整備を行い、地場産農産物等の加工・販売を持続的に行うことで、集落の活性化を図る。



【将来像を実現するための活動目標】

- 維持困難な農用地が発生した場合は、「農事組合法人 能登やまびこ」が引き受ける体制とする。
- 農産物の販売を定期的・持続的に行えるような体制とする。

【活動内容】



4. 今後の課題等

担い手への農地集積が進むにつれ非農家層が増えてきたことにより、これまでの伝統的なコミュニケーションが希薄になり、地域住民の農村への帰属意識が薄れつつある。

今後においても、田んぼに住む生き物などに注視するなどして環境を意識した農業に取り組み、地域住民との「ふれあいの場」を創造しながら、農業・農村への理解を深め、非農業者と連携した「ふるさと」づくりを推進していきたいと考えている。

【これまでの主な効果】

- 担い手への農地集積
 - ・ 協定農用地の集積 4.1ha
- 自然生態系の保全に関する学校教育との連携
 - ・ 「生き物調査」の実施
- カバープランツの実施